

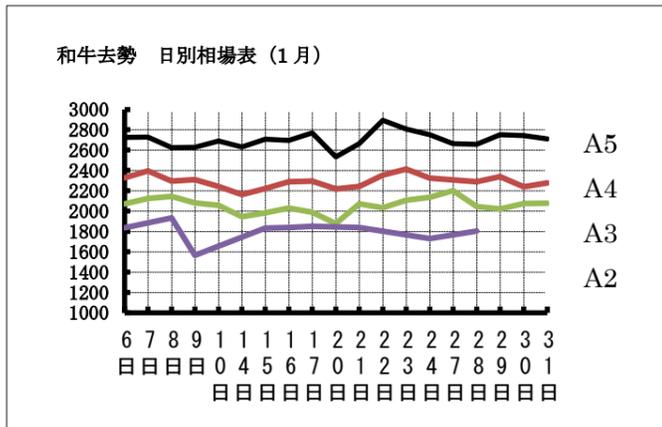
月刊しばうら

2020年 2月号

大動物事業部

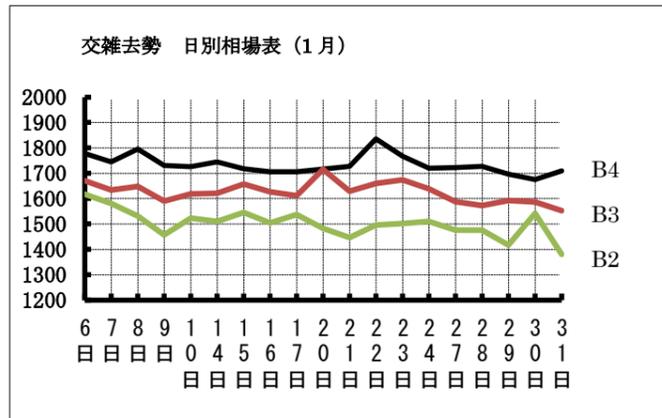
<1月の相場動向>

和牛去勢 A5 が前月比 47 円安の 2,716 円（前年同月比 112 円安）、A4 が同 29 円安の 2,296 円（同 217 円安）、A3 が同 42 円高の 2,053 円（同 272 円安）、A2 が同 11 円安の 1,765 円（同 291 円安）となり、交雑牛去勢は B4 が 123 円安の 1,730 円（同 2 円安）、B3 が同 71 円安の 1,623 円（同 11 円安）、B2 が同 19 円安の 1,493 円（同 28 円安）となった。年始の相場状況については、個人消費の低迷など好材料も少なく弱含みのまま迎えた年始であったが、和牛は 5 等級の上物を除き軟調であったのに対し、交雑牛は和牛からのシフトも進み、いくぶん弱含みとなったものの依然として堅調な相場となった。



和牛去勢 (月平均)

A5	2,716 円	(前年同月比 96.0%)	(前月比 98.3%)
A4	2,296 円	(" 91.4%)	(" 98.8%)
A3	2,053 円	(" 88.3%)	(" 102.1%)
A2	1,765 円	(" 85.8%)	(" 99.4%)



交雑去勢 (月平均)

B4	1,730 円	(前年同月比 99.9%)	(前月比 93.4%)
B3	1,623 円	(" 99.3%)	(" 95.8%)
B2	1,493 円	(" 98.2%)	(" 98.7%)

乳牛去勢 (月平均)

B3	上場なし		
B2	952 円	(前年同月比 95.1%)	(前月比 112.4%)

<2月の牛肉輸入量予測>

財務省の貿易統計によると、2019年の年間輸入量は前年比 1.3%増の 615,390 t で、昨年に続き 60 万 t 台に乗せた。チルドは 1.4%減の 274,896 t、フローズンは 3.6%増の 340,494 t となった。豪州産は現地高が続いたことで、チルドで 1.8%減の 12.5 万 t、フローズンは 8.6%減の 16.8 万 t となり、合計でも 5.8%減の 29.4 万 t となった。米国はチルドが 7.0%減の 12.7 万 t、フローズンは 2.9%増の 11.4 万 t で合計 2.6%減の 24.1 万 t だった。また、昨年ウルグアイなどの新規供給国が増えた年でもあった。

農畜産業振興機構によると 2 月の牛肉輸入数量は、前年比 11.2%増の 4 万 4,600t と予測。チルドは、4.9%増の 1 万 9,900t、フローズンは 17.1%増の 2 万 4,700 t でそれぞれ前年同月を上回ると予測している。

輸入牛肉通関量		12月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	10,294	10,574	97.4%
	米国	8,908	11,008	80.9%
	その他	2,336	1,262	185.1%
	合計	21,538	22,844	94.3%
フローズン	豪州	12,747	14,914	85.5%
	米国	15,076	8,437	178.7%
	その他	3,770	1,421	265.3%
	合計	31,593	24,772	127.5%

単位：t 出典：食肉速報

<2月の全国出荷頭数予測>

家畜改良センターの個体識別情報によると、19年12月末現在の全国飼養頭数は前年同月比 0.9%増の 387 万 5,000 頭となった。内訳は黒毛和種が同 2.5%増の 167 万 6 千頭、交雑牛は 1.8%減の 49 万 5,000 頭、乳雄は 4.1%減の 26 万 5,000 頭、乳雌は 0.9%増の 135 万 9,000 頭で、引き続き黒毛和種は増加基調、交雑種及び乳雄は減少傾向となっている。

農畜産業振興機構による 2 月の出荷予測頭数は、全体で前年比 1.2%減の 7 万 7,700 頭と予測している。品種別にみると和牛は 2.1%増の 3 万 3,200 頭、交雑種は 3.4%減の 1 万 8,000 頭、乳用種は 4.9%減の 2 万 4,900 頭としている。東京市場の 2 月のと畜頭数は 6,400 頭を予定している。

<2月の牛枝肉相場見通し>

2 月は末端消費の落ち込む時期でもあり弱含みの相場展開か。量販店においても輸入物が拡販され、国産の取り扱いが減少傾向にあるなかで、全体的にも低調な荷動きが予測される。とりわけ和牛は枝肉の仕上りの良し悪しにより同等級内においても格差が予測される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,650~2,750	B4	1,700~1,750
A4	2,250~2,350	B3	1,600~1,650
A3	2,000~2,100	B2	1,450~1,500
A2	1,750~1,850		
乳牛去勢			
B3	1,050~1,100		
B2	900~1,000		

小動物事業部

12月の全国と畜頭数は、前年同月比 2.5%減の 141 万 4,400 頭と減少した。また、12月の豚肉通関数量は 7 万 2,325t（前年同月比 1.2%減）となった。前月比では 12.6%と大きく減少。内訳はチルドが 3 万 4,455 t（2.6%減）減少した一方、フローズンは 3 万 7,870t（0.1%増）と前年並みとなった。

2018-2019年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
12	79,338	73,146	19,394	140,967	78,307	77,161
1	79,477	61,703	19,643	144,246	79,203	58,424
2	75,590	81,638	19,818	147,097	72,334	78,787
3	74,058	68,303	21,221	145,268	72,588	70,432
4	77,788	98,235	22,544	167,222	76,406	76,281
5	75,254	84,396	21,643	184,963	76,085	66,655
6	67,048	76,246	23,332	183,952	65,290	77,257
7	74,899	83,315	21,828	192,531	76,348	76,736
8	67,745	84,982	20,615	200,018	68,891	77,385
9	68,819	78,125	20,351	197,854	69,025	80,399
10	79,112	83,940	20,128	198,840	79,247	82,954
11	77,534	82,715	21,804	191,175	75,817	90,380
12	80,884	72,264	20,806	181,469	81,783	81,970
比	102%	99%	107%	129%	104%	106%

比：最終月の前年同期比 出典：農畜産業振興機構 単位：t、%

12月豚肉通関実績					
国名	冷蔵		冷凍		前年比
	数量	前年比	数量	前年比	
アメリカ	16,392	94.7	デンマーク	5,515	76.6
カナダ	17,290	101.2	スペイン	9,671	137.0
メキシコ	770	77.9	メキシコ	7,178	105.2
			アメリカ	2,344	58.5
			カナダ	3,032	115.1
合計	34,455	97.4		37,870	100.1

<1月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
6日	71,200	481	461	1,136
7日	73,000	558	511	673
8日	72,200	604	544	663
9日	74,400	634	589	664
10日	70,200	540	475	994
14日	78,400	508	432	868
平均	73,233/日			833/日

年明け6日の初セリは上物 481 円と落ち着いたスタートとなったが徐々に上昇傾向となり 8 日には 600 円を超える高値相場となった。しかし、3 連休明けには相場は落ち着きを取り戻す展開となった。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
15日	75,000	481	424	1,019
16日	74,500	434	379	1,010
17日	73,600	446	365	980
20日	69,300	443	348	747
21日	70,700	433	368	976
22日	71,100	436	352	754
23日	71,400	409	352	798
平均	72,228/日			897/日

暖冬により豚の増体が進んでおり早出し傾向が強まり、供給量が需要を上回る展開が続いた。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
24日	69,700	376	307	1,015
27日	66,500	366	307	696
28日	68,700	387	339	837
29日	66,300	395	338	714
30日	68,200	399	360	747
31日	65,600	397	360	734
平均	67,500/日			790/日

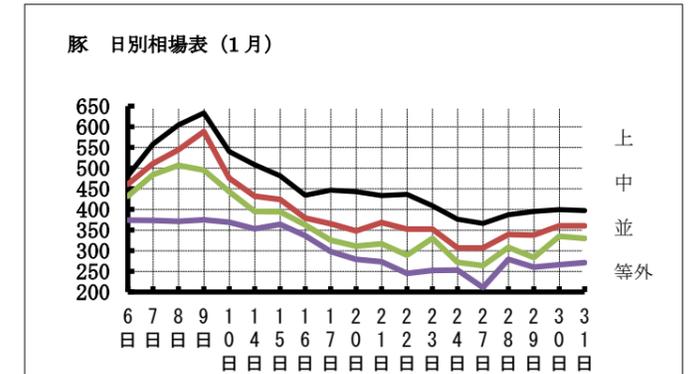
全国と畜頭数は徐々に減少し、7 万頭台を割り込むようになってきた。全国的に不安定な気候が続く季節外れの気温の上昇もあり鍋物需要はバラやカタロースなどのスライス系商材も荷動きが鈍かった。そのような状況の中、上相場は 397 円で最終日となった。

<2月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による 2 月の肉豚出荷予測では 129 万 7,000 頭（前年比 99%）と予測している。当市場の 1 月集荷予定頭数は 1 万 6,000 頭、1 日あたりでは約 888 頭を見込んでいる。農畜産業振興機構によると 2 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 7 万 800t（同 86.7%）、内訳はチルドが 3 万 1,700t（同 106.2%）、フローズンは 3 万 9,100t（同 75.5%）と予測。冷蔵輸入量は、前年の輸入量が入船遅れにより少なかったことから前年同月をかなりの程度上回り、3 ヶ月平均では、前年同期をやや上回ると予測する。冷凍品輸入量は、前年同月の輸入量が日 EU・EPA の発効により通関繰り越しされ多かったことから、前年同月を大幅に下回り、3 ヶ月平均では、前年同期をわずかに上回ると予測する。

2 月は需要が低迷する時期となり相場の上げ材料は乏しいことに加え、今回の新型肺炎により外食やホテルへ影響を与えることも懸念される。暖冬により 1 月の出荷が早出しとなった反動から今後の出荷動向次第では中旬から下旬にかけて相場は持ち直すことも予想される。

以上のことから当市場の上物平均価格は 430 円前後、中物平均価格 410 円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127

URL <http://www.tmmc.co.jp/>

出荷者の皆様へ

PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、防疫体制を強化しております。生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。